お祈りしましたか？

2023/5/14

聖書はお祈りすることの大切さを教えています。お祈りはクリスチャンに取って、まるで呼吸の様に大切なのです。お祈りと言っても、いろいろな要素があります。

Ⅰ．　神様にお願いしましたか？　私たちはいろいろなことで悩みます。悩むと心が重くなり、頭の回転も遅くなり、ろくなことがありません。物事を自分で考え、自分で解決するのが、人間に与えられた責任であり、そのための思考能力、分析能力、決断力も与えられています。でもそれらが全く機能しなくなってしまうほど、悩み迷うこともあるのです。そんなことが少なく、平安に暮らすことが出来るように、予め、神様に信頼を置いて祈っておくことが大切です。問題が起こってから祈るのでは、ちょっと泥縄だと思います。でも、泥縄でもお祈りをした方がいいのです。嵐の湖で沈みかけたペテロが、あわてて、「主よ。お助け下さい」と、イエス様に叫んだように、イエス様に、大声でしがみつけばいいのです。主は、ペテロにおっしゃったように、「どうしてこわがったのか？」と優しく叱責して助けてくださいます。

お祈りはまず、御願いです。身勝手な、独りよがりのお願いかもしれません。人間は愚かですから、馬鹿々々しいお願いをたくさんします。人間の願い事のすべてが、聞き届けられていたらと思うだけで、寒気がします。お願い通りには聞き届けてくださらないところが、また、神様の素晴らしさなのです。すべてのことをご存じの神様は、何が私たちに取って最善なのかを、私たちがお祈りする前から、知っておられるからこそ、あなたの初恋の相手と結婚させてくださらなかったのかもしれませんね。でも、あなたがその人と結婚できますようにと祈ったことは、実は素晴らしいことなのです。それは、あなたと神様との距離を縮めたからです。小さな子供が、父や母に無理なお願いをしてもいいのです。それは親子の距離を程よく保つ役割をするのです。あなたが聞き入れられない祈りを繰り返しても、それが、神様と貴方の距離を縮めてくれるなら、素晴らしいことなのです。祈りは、本当は、神様との距離を縮めるものではありません。でも、いつもお願いして祈っていたら、あなたが、神様を近くに感じられるようになるのです。それこそが大切なのです。近くにいてくださる神様を、近くに感じることです。

Ⅱ．　感謝をしましたか？　お祈りには感謝という側面もあります。お願いばかりしていて、御願いが聞き入れられても、まったく感謝もしない人がいます。残念なことです。祈りが聞き入れられても、聞き入れられなかったとしても、祈りを聞いて下さっただけで感謝をしたいものです。世の中にはカウンセラーと言うビジネスがありますが、カウンセラーに取って最も大切なことの一つは、人の悲しみや苦しみの愚痴を、忍耐深く聞いてあげて、何もサジェッションをしないことです。人は聞いてもらうだけで、半分以上解決した気持ちになるのです。神様はあなたの愚痴を忍耐深く聞いて下さいます。先ずそれを感謝しましょう。

それから、あなたの願いを聞き届けてくださったことに感謝しましょう。あなたが願う前に、あなたの必要をご存じで、その必要を満たして下さっていることを知っていますか？　太陽を昇らせ、雨を降らせ、緑を生えさせ、魚を泳がせ、桜を咲かせ、枇杷を稔らせてくださった神様に、感謝をしましたか？　あなたに命を与え、空気を与え、食べ物を与え、水を与え、小言を言う両親を与えてくださったことに、感謝をしたことがありますか？

お願いばかりして、お礼を言わない人は、恥知らずです。恥知らずのクリスチャンにはなりませんように。神様への感謝は、いろいろな方法で表現できます。言葉でありがとうございますというのも大切ですが、大きな大きな神殿で、当時の最小価格の銅貨レプタを2枚捧げた女は、銅貨ではなく感謝を捧げたのです。レプタ2枚がどれほどの役に立つのかと考えると、奉げるのも恥ずかしくなります。でもこの女は感謝の証として奉げたのです。それをご覧になったイエス様は、彼女は最も多くの物を捧げたのであると、賞賛してくださったのです。神様は素直な感謝を喜んでくださいます。

Ⅲ.　賛美をささげていますか？　祈りの中で最も高い位置にあるのが、賛美です。感謝は、その人がしてくださったことへのお礼です。たとえ相手がどんなに悪い人間であっても、良いことをしてくれたら感謝をします。しかし賛美は、された良いことに対してすることではなく、常に良いことをしてくださる相手の、すばらしさを褒め、またたたえるのです。感謝は行為に対してするものですが、賛美は行為をする人、行為を生み出す人に対するもので、その人自身を褒め、また称えることです。神様に対する賛美は、神様が何をしてくださったからと言うのではなく、その素晴らしい行為を次々と生み出す、神様の性格、神様の人格（神格）への称賛です。人間の間でも、あの人は良いことをしてくださったというだけではなく、あの人は素晴らしい人だ、だから良いことをしてくれるのだという理解です。神様はたくさんの善い事、素晴らしいことをしてくださいました。だから神様は素晴らしい方なのではなく、初めから神様は素晴らしい方だから、素敵なことをしてくださるのです。

小さなことで神様を称えましょう。ことさら何も起こらず、平安な社会であること感謝し、そのような社会に私たちを置いて下さっている神様を賛美しましょう。私たちが神様に似せて造られ、神様の感覚を与えられていることも喜んで、そのようにしてくださった神様を称えましょう。「神様、あなたは素晴らしいお方です」と、褒めたたえましょう。この表現できないほど複雑でありながら、見事に整っている自然の世界をお造りになった神様を称えましょう。私たちの目に見えないもの、顕微鏡でも、どんな機械でも測定できない多くの物をお造りになった神様を称えましょう。

この宇宙の存在物の96％以上は、そのような目に見えない、測定も不可能なものでできているのです。それが異次元の存在を想定させ、その異次元の中に、私たちが住んでいる世界とよく似た世界があるとも考えられるのです。聖書の教えは、神様の知恵のすべて、神様の能力のすべてを記しているのではありません。人間の救いに関することだけを取り扱っているのです。ですから、三葉虫やアンモナイト、さらに恐竜について、聖書は何も言っていません。それらのものは、人間の救いに全く関りがないからです。聖書には

記されていないことが沢山あるのです。そのように高く広くっ深い神様を称えましょう。私たちをご自分に似せて造って下さり、神様の様に物事を見、感動し、喜びを感じ、平安を感じることが出来るようにしてくださった、素敵な神様を賛美しましょう。

私たちも、感謝されることもうれしいものですが、褒められることの方がもっと嬉しいものです。あまり褒められると恥ずかしくなりますが、それで高慢にならず、静かに受け入れて喜びましょう。褒められるのは、悪いことではありません。それで傲慢になったり、鼻にかけて威張ったりするのがいけないのです。褒められなければよいことをしないというのは最悪です。褒めて育てる行き過ぎた文化のアメリカのような、罠にはまらないようにしましょう。日本には、「稔るほど頭を垂れる稲穂かな」という、素敵な言い方があります。クリスチャン文化と言われるアメリカよりは、よほど優れています。

私たちは祈るとき、必ず感謝をし、賛美で締めくくりましょう。